**レポート課題　高校進学に伴う機会費用と便益について**

**情17-0000　あいうえお**

**指導教員　かきくけこ**

**１. はじめに**

2018年4月、将棋の藤井聡太六段は悩んだ末、高校進学を決めた。高校進学をするか否かという判断は、誰もが直面する問題ではあるが、プロ棋士として活躍している彼にとっては、より一層、難しい問題であった。本レポートでは、高校進学によって起こる事柄を、機会費用と便益の観点から分類し、高校進学という決断が藤井六段にとって、便益が機会費用を上回ることを提示する。本稿の構成は以下に示す通りである。続く第2章では本レポートが依拠する考え方について説明する。第3章で仮説を設定し、その検証方法および検証結果を述べる。第4章では本レポートから得られた発見事項に対する考えを述べる。

**２. 用語の定義とモデル化**

まず、本レポートで使用する２つの専門用語について定義する。１つ目は便益である。資料１）によると、便益とは便利で有益なこと、とある。便利で有益なものの１つとして、お金が挙げられることから、ここでは賞金額を一つの指標として用いる。２つ目は機会費用である。資料２）によると、機会費用とはある行動を選択することによって失われる、他の選択可能な行動のうちの最大利益とされている。ここでは、高校進学をしなかったときの最大利益とする。次に、機会費用と便益を比較する方法について、進学した場合としなかった場合のプロ棋士としての賞金額を比較し、進学した場合のほうがより賞金額が高いことを証明する。また、ここでは資料３）のデータを用いる。

**３. 検証**

資料３）では2017年1月1日から同年12月31日までの獲得賞金・対局料ベスト10が氏名と賞金額（単位は万円）がリストアップされている。このデータを各々の学歴（中卒か高卒以上か）によって、分類し、それぞれの賞金額の平均を算出した。

※ここでは、中卒を0,高卒以上を１とする。

表1

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 名前 | 賞金額 | 高校 |
| 渡辺明棋王 | 7,534 | 1 |
| 佐藤天彦名人 | 7,255 | 1 |
| 羽生善治竜王 | 5,070 | 0 |
| 久保利明王将 | 3,019 | 0 |
| 丸山忠久九段 | 2,908 | 1 |
| 稲葉陽八段 | 2,801 | 1 |
| 菅井竜也王位 | 2,363 | no data |
| 中村太地王座 | 2,144 | 1 |
| 松尾歩八段 | 1,985 | 0 |
| 佐藤康光九段 | 1,967 | 1 |
| 平均 | 3704.6 |  |

表2

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学歴 | 中卒 | 高卒以上 |
| 賞金額 | 3358 | 4101.5 |

本評価結果では、中卒の平均賞金額が3358万円、高卒以上の場合が4101.5万円となり、この手法では高卒以上のほうが賞金額が高いという結果を導くことができた。

**４．まとめ**

今回のレポートでは、2016年以前のデータを考慮していないが学歴と賞金額の関係を実際の数値として、示すことが可能になったという点で、得るものがあり、その差が700万円以上という数値に関しても決して低くはないと考える。しかし、プロ棋士の収入として、将棋教室やイベントでの報酬がある点。また、高校進学のメリットとして、学校というコミュニティーの中で生活することにより、視野、知見が広まったり、交友関係が広がること、同年代の友人と有益な時間が過ごせることなどがあり、藤井六段が高校生活の中で何に重きを置くかによって、便益が変わるという点。以上2点からこのレポートの手法が本当に有用であるかは、まだ議論の余地がある。プロ棋士として強くなるには、将棋盤に、より多くの時間、向かう必要がある。しかし、高校での様々な経験はその後の人生でも必ず役に立つ。将棋と学業を両立させて、すべてをプラスにし、高校進学という一手が最善手になるべく、充実した3年を送ってほしい。

**５．参考資料**

１）コトバンク, 便益, URL: https://kotobank.jp/word/便益-22819

２）金融情報サイト, 機会費用, URL:https://www.ifinance.ne.jp/glossary/business/bus029.html

３）日本将棋連盟, 2017年獲得賞金・対局料ベスト10,　URL:https://www.ifinance.ne.jp/glossary/business/bus029.html